

ご 注 意

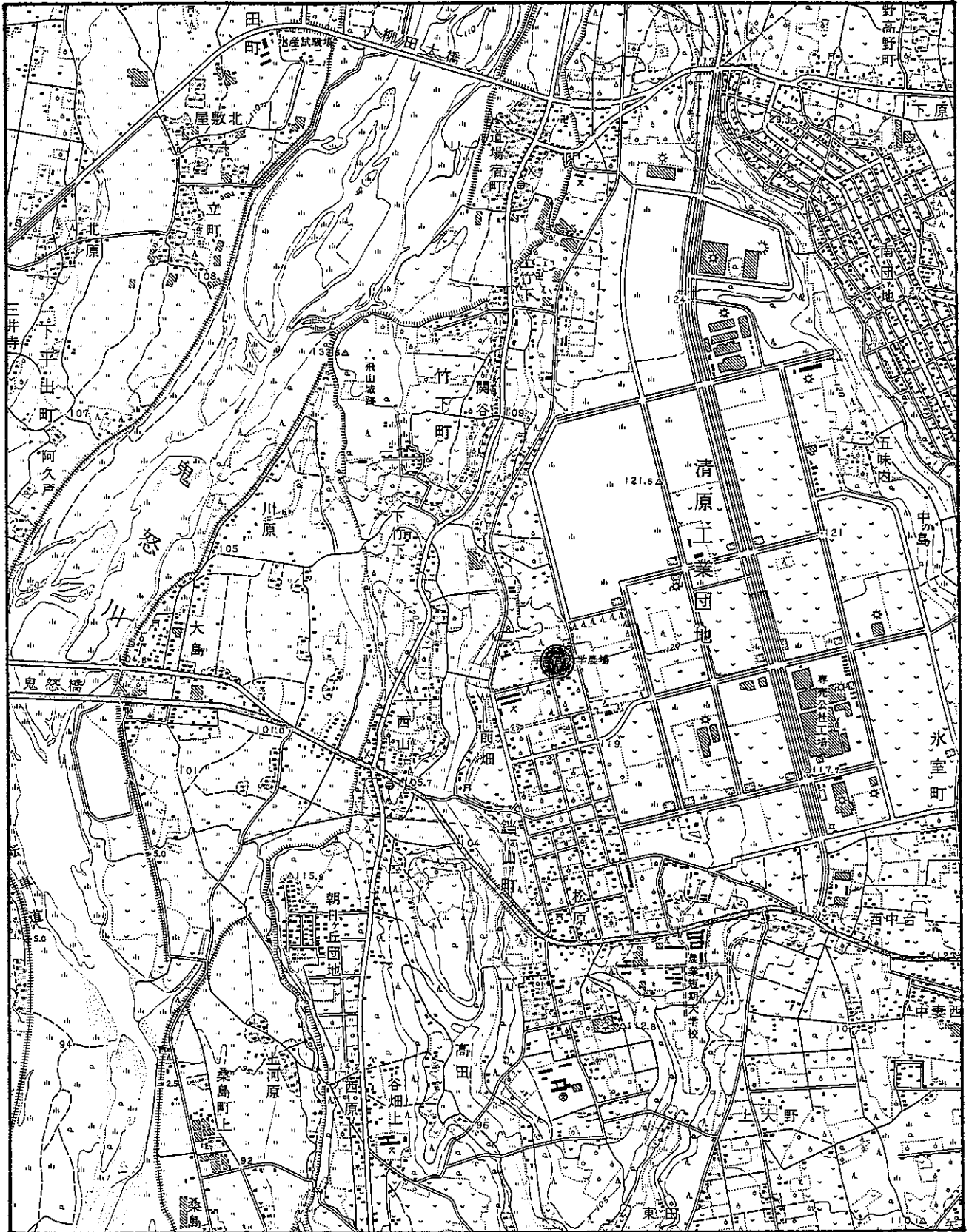
地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

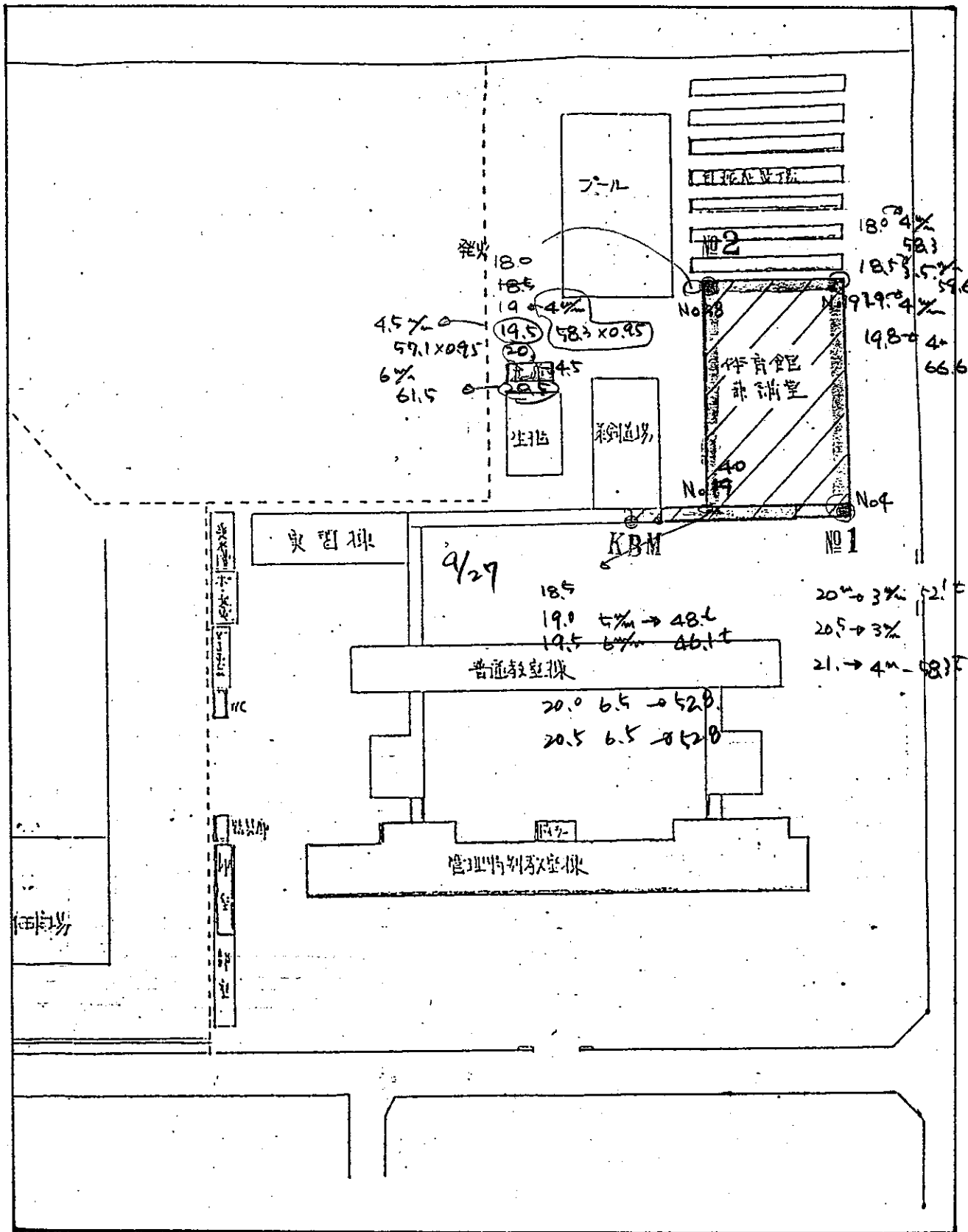
したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

2 調査位置図



案内図 S = 1 : 25,000



位置図 S = 1 : 1,200

宇都宮清陵高校体育館兼講堂新築工事地質調査

宇都宮市竹下町

昭和60年6月13日 ~ 昭和60年6月15日

99.89m 基準 仮BM(100.00m)

現場技術者

ロータリー式(カノ-KR-100)

U.....不攪乱試料採取
D.....攪乱試料採取

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	孔内水位 (m)	層厚 (m)	試料採取位置 (m)	土質記号	土質名	色調	記事	相対密度および1	標準貫入試験			尺 (m)
											貫入深度 (m)	N 値	10cm毎の打撃回数	
0	98.89	1.00		1.00		X	盛土	暗褐色	0-0.05m 砕石・玉石混じり 有機質土主体 0.06-1.0m ローム主体 上層未混じり 約30%値の礫混入	中位の			0	
1	98.19	1.70		0.70		△△△	有機質火山灰土	黒褐色	粘性含水量中位 2.6mより軽石多量混入	中位の	7 2 2 3 2	31 12 11 8	1	
2	96.69	3.20		1.50		△△△	ローム	茶褐色	0.5m前後の多孔質粗粒 状含水量極めて多い	中位の	6 2 2 2 2	22 2 8	2	
3	95.79	4.10		0.90		△△△	鹿沼軽石	黄褐色	全体的に少量の軽石を含む 8m付近赤褐色のスクリヤを混入しやや固結している 10m付近より粘土化が進行し、やわらかくなる 12m以降で漏水がところどころある	非常にやわらかい	5 2 1 2 9	15 6 9	3	
4											4 2 1 1 1	11 1 9	4	
5											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	5	
6											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	6	
7											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	7	
8											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	8	
9											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	9	
10											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	10	
11											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	11	
12											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	12	
13											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	13	
14	86.09 85.79	12.00	泥水位	0.30		△△△	黄圃軽石	黄褐色	粘土化している	中位の	6 2 2 2 2	22 13 9	14	
15											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	15	
16											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	16	
17											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	17	
18											3 1 1 1 1	3 1 1 1 1	18	
19	81.09 80.34	18.80 19.55		0.75		△△△	ローム	褐色	粘土化が進行している 17.0mより炭化物混入する 18.35m以降で2-30%値の礫混入する	やわらかい	4 1 2 1 1	14 6 6	19	
20											5 2 1 2 2	14 6 6	20	
21											9 1 2 6 6	1 2 6 6	21	
22											13 3 4 6	3 4 6	22	
23	76.59	23.30		3.75		△△△	細砂	褐色	含水量多し、シルト分豊富 φ2-60%の円礫 ~角礫が主体 粘土分全体に混入 19.65~19.8m 粗砂探む 20.8~21.2m 粗砂分が多い	非常に粗	50 26 25	50 26 25	23	
24											50 11 18 21	11 18 21	24	
25											50 34 16	50 34 16	25	
26											50 14 4	50 14 4	26	
27											50 31 19	50 31 19	27	
28											50 15 5	50 15 5	28	
29													29	
30													30	

ボーリング番号		No. 2		備考	
調査名		宇都宮清陵高校体育館兼講堂新築工事地質調査			
調査場所		宇都宮市竹下町			
調査年月日		昭和60年6月15日 ~ 昭和60年6月17日			
調査高さ		100.07m			
ボーリング工法		ロータリー式(カリ-KR-100)		現場技術者	
標準高(m)		98.47		U.....不攪乱試料採取 D.....攪乱試料採取	
標高(m)		97.57			
深度(m)		2.50			
孔内水位(m)		1.40			
層厚(m)		1.00			
試料採取位置(m)		9.90			
土質記号		真岡軽石			
土質名		真岡軽石			
色調		黄褐			
記事		真岡軽石の多量混入。下部軽石多量混入。粘土含水量中位。腐植物が混入。火山灰質である。			
相対密度および		中位の			
N値		34			
貫入深度(m)		5.49			
10cm毎の打撃回数		2			
10		1			
20		2			
30		8			
40		3			
50		1			
尺(m)		0			
1	1.15	5	1	2	
2	1.45	6	1	2	
3	2.15	3	1	1	
4	2.45	4	1	2	
5	3.15	2	1	1	
6	3.45	34	24	1	
7	4.15	4	1	2	
8	4.45	31	15	6	
9	5.15	2	1	1	
10	5.49	32	19	13	
11	6.15	4	1	1	
12	6.46	4	1	2	
13	7.15	5	1	2	
14	7.47	4	1	1	
15	8.15	4	1	2	
16	8.45	5	1	2	
17	9.15	4	1	2	
18	9.45	4	1	2	
19	10.15	4	1	2	
20	10.45	2	1	1	
21	11.15	2	1	1	
22	11.47	32	18	14	
23	12.15	3	1	1	
24	12.50	35	16	11	
25	13.15	4	1	2	
26	13.46	31	15	6	
27	14.15	4	1	2	
28	14.45	4	1	1	
29	15.15	6	2	2	
30	15.45	12	12	8	
31	16.15	2	0	1	
32	16.45	2	8	13	
33	17.15	4	1	1	
34	17.48	33	11	9	
35	18.15	41	18	13	
36	18.45	50	23	27	
37	19.15	20	19	35	
38	19.35	50	21	24	
39	20.15	50	21	24	
40	20.56	21	50	40	
41	21.15	50	40	10	
42	21.27	12	2	2	

No. 2 孔